

令和6年度第1回静岡市商業振興審議会 会議録

- 1 日 時 令和6年7月2日(火) 15:00~17:00
- 2 場 所 静岡市産学交流センター B-nest 6階 演習室4
- 3 出席者 [委員] 岩崎会長、池谷委員、上西委員、鈴木委員、中村委員
橋本委員、前田委員、牧野委員、山梨委員、山本委員
※石川委員、村井委員はご欠席
[アドバイザー] 上山氏
[事務局] 経済局 気田局次長
商業労政課 平尾課長、横田係長、藤原主査、渡部主任主事
松本主任主事
都市局 大谷・小鹿まちづくり推進課 宮崎係長、原田主査
- 4 傍聴者 1名
- 5 議 題 (1) 今後の商業振興施策について
(2) 静岡市良好な商業環境の形成に関する条例・指針について

6 会議内容(要旨)

<次第1 開会>

<次第2 気田経済局次長あいさつ>

<次第3 審議会について>

審議会の論点を整理

<次第4 講演>

岩崎会長の講演「顧客を引きつける地域商業をつくるために」

(主に、現在の消費者のニーズや消費者を引きつける個店の強みについてのお話)

【岩崎会長】

面積だけで小売業の魅力を決める時代ではないということ、また、小さなお店にも個性や他にはない魅力があれば消費者を呼び込むような強みがあるという視点を持ち、議論に臨んでいただきたい。

<次第5 議事>

議事1 「静岡市良好な商業環境の形成に関する条例・指針について」

【事務局】

資料1, 2, 3により、条例・指針における宮川・水上地区のゾーニングについて説明

【岩崎会長】

議論に入る前に、上山アドバイザーからまちづくりに関するアドバイスをいただきたい。

【上山アドバイザー】

・土地利用計画は市民意見をなるべく反映したものであるべき。そのような機会はこれまでもあり、今後もあると思うが、より幅広い意見を聞くため、行政からの発信をしっかりといただきたい。

・静岡市内の各エリアにはそれぞれ特色・役割がある。他のエリアとのつながり・関係性についても踏まえながら、新たに宮川・水上地区をどういったエリアにしていくのか、議論していく必要がある。

・岩崎会長の講演にもあったように、立地する店舗については、面積だけでなく中身についても考えていただきたいと考えている。必ずしも、規模の大きな店舗ほど魅力的であるとは限らない。

・大規模集客施設制限地区となった場合、原則、建物の延床面積1万㎡までの制限がかかるとの話もあったが、宮川・水上地区については、まちづくりの方向性に沿った施設であれば、延床面積が1万㎡超であっても、認められうると考える。

【中村委員】

・日本平久能山スマートインターチェンジ近くの広大な平坦地ということで、宮川・水上地区が重要な場所であることは理解しているが、本当に商業施設が必要なのか疑問に感じている。

・スマートインターチェンジとしては利用台数が全国2位とのことだが、これまで静岡インター、清水インターを利用していた車が利用するようになったことが大きいと思う。宮川・水上地区に商業施設を建てて、果たして市外・県外からの集客が思うようにできるのか、楽観的な見方ではいけない。また、宮川・水上地区に訪れた人を中心市街地へ回遊させることも簡単なことではない。

【山本委員】

・土地利用計画については業務代行者が行っているとのことだが、現段階の状況やプロセスについてあまり情報が出てこない。審議会以外にも、市民に広く公開していただきたい。

【池谷委員】

- ・立地する店舗は何でもいいというわけではなく、以前からご説明いただいている「静岡らしさ」が必要だと考える。テーマのないエリアでは魅力に欠ける。静岡らしさのない商業施設はふさわしくない。
- ・軸となるコンセプトがあれば、広域からの市の玄関口として、魅力的で吸引力のあるエリアになると考える。

【岩崎委員】

しっかりとしたテーマや軸がないと消費者を引きつけることができない。寄せ集めでは吸引力が高まらないということである。

【橋本委員】

以前から、食と農、スポーツ、エンターテインメント等の機能を取り込んだ施設を想定しているとのことをご説明をいただいているが、先日、テレビでも報道されていた。

【大谷・小鹿まちづくり推進課】

・それらの施設は、ランドデザインやまちづくりビジョンに示されているものだが、具体的に立地する施設は現時点では未定である。市としては静岡らしいエリアにしたいということで、それらに則って話を進めているところ。

【橋本委員】

このエリアに住んでいる知人の話では、地元住民からは大型商業施設を望む声が出ているとのことだった。

【鈴木委員】

池谷委員と同じく、軸となるコンセプトを決めてから立地する施設を考えなければ、すでに中心市街地や東静岡周辺にある施設と同じようなものができるだけになってしまうのではないかと。

【山梨委員】

市外県外から宮川・水上地区を訪れた人たちを、中心市街地等の他エリアに回遊させる取組について、行政としてはどのようにお考えか。

【岩崎会長】

行政側で市内回遊を促進する仕組みづくりを運用できるのか。

【大谷・小鹿まちづくり推進課】

- ・具体的にはまだ決まっていないが、市外県外の方の玄関口となるので市内エリアの紹介をする案内所等を設置し、回遊を促進するための情報発信をしていきたい。
- ・また、このエリアは車では来やすいエリアだが、公共交通機関は弱い。簡単ではないが、路線バスなど充実させていきたいとも考えている。

【山梨委員】

- ・ハード面だけでなくソフト面の回遊促進策も考えていただきたい。例えば、行政がフリーWi-fiを設置することによって、来訪者に対して情報を発信することや、宮川・水上地区を最先端のウェブ推進地区にして、市内各エリアの紹介等をしていくことなど。
- ・この審議会でも、どうしたら市内を回遊してもらえるのかを議論できるとよい。
- ・どのような企業が出店を検討しているか等の情報がないと、密な議論ができない。

【牧野委員】

- ・宮川・水上地区から少し北側には、マークイズやイオンがあり、このエリアに商業施設ができて競合してしまうのではないか。
- ・一番気になるのは駐車場の問題。広域からの集客を目指すのであれば、立地する施設自体だけではなく、駐車場の確保についてもよくお考えいただきたい。
- ・市内の商業施設の中には、小さなテナントがたくさん入っているような施設があるが、核となるテナントがないことで、集客に苦労している施設もあるようだ。それらの施設は、テナントの入れ替えも激しい。
- ・商業施設を計画するのであれば、プロのディベロッパーを入れて、運営・維持管理をしっかりとやっていただきたい。

【岩崎会長】

既存商業施設との競合や、駐車場の問題、商業集積のオペレーションの問題など、多様な問題について考える必要がある。

【前田委員】

- ・宮川・水上地区から中心市街地へ回遊させるという考えは素晴らしいが、その仕組みづくりはなかなか難しいところがある。
- ・ソフト的な回遊促進策として、市内各所を回るデジタルスタンプラリー等をやってはどうか。ハードだけでなくソフト的な施策を考えたほうがよい。

【岩崎会長】

回遊の仕組みとして、ソフト面の取り組みもぜひ入れていきたいところ。

【上西委員】

- ・店舗面積だけで制限することはあまり有効ではないと考える。既存の商業への影響等を考えると、宮川・水上地区に関しては、テナント数に上限を設けるほうが有効ではないか。
- ・市外県外からの集客を考えるのであれば、宮川・水上地区には1万㎡前後くらいの店舗面積がないと魅力が出せないと考える。
- ・主に観光客向けに、静岡らしさのあるローカルな特色がある施設が併設されているとよい。中心市街地とも競合せずに、静岡市の吸引力を高めることができる。
- ・車でのお客が大半と見込まれるため、駐車場の確保は重要だと考える。
- ・中心市街地との回遊を考えるならば、簡単ではないが公共交通機関を充実させることも必要である。ハード・ソフト両面での施策を検討していただきたい。

【中村委員】

- ・6月に都市計画審議会を傍聴した際、宮川・水上地区の地区計画が定められたことで、大規模集客施設制限地区ということで延床面積の制限を受けることを知った。そもそも広域集客を目指す地区に制限が設けられることに矛盾を感じた。
- ・山梨委員と同じく、業務代行者がどういった企業と話をしている、どの区画にどういった施設を作ろうとしているのか等、できるだけ情報共有をしてほしい。

【事務局】

終了時刻が近づいているため、中心市街地施策についてのご意見は、後日事務局から皆様へ個別に確認させていただく。

議事2 「今後の商業振興施策について」

【事務局】

資料4により、個店の創業・成長支援策について説明

【山梨委員】

面的価値向上事業補助金について、この審議会から出た意見を踏まえてまちづくり事業者への支援策をつくっていただけて大変ありがたい。

【岩崎会長】

・ソフト面の支援だけでなくハード面の支援となる事業であり、非常に特色のある施策になる可能性があると考えている。審議会の意見を取り入れていただき感謝する。今後も、審議会が出た多様なご意見を施策へ反映していただければと考える。

< 次第 6 事務連絡 >

< 次第 7 閉会 >